

に「気づかなかつた」というケースもたくさんあります。急性中耳炎は風邪をひいたあとになることがほとんどです。先に鼻水や発熱などの風邪症状が現れるために小児科を受診されるお子さんが大半です。小児科では、発熱や鼻水などの、風邪症状に対して、解熱鎮痛剤や抗生物質を処方することがよくあります。風邪の治りかけに急性中耳炎を起しても、これらの薬を服用し続けることにより、薬の作用で、ある程度の症状は治まってしまいます。そのため、急性中耳炎になつていても気づかないのです。

ところがこのことが、あとになつて影響を及ぼします。

急性中耳炎の初期に抗生物質や解熱鎮痛剤などで不完全に症状を抑えてしまうと、かえつて中耳腔に分泌物が残つたり、抗生物質に対する耐性菌が生まれてしまうことがあります。そのためいつまでも炎症がくすぶつたままになり、そのまま滲出性中耳炎に移行してしまうのです。



小児科医が耳の中を診て、急性中耳炎を疑い、耳鼻科の受診をすすめた場合、早期に発見できることもあります。現実にはこうしたケースは多くなく、鼻水や鼻づまりが長引くなどの症状で耳鼻科を受診して、中耳炎が発見され、その大半は急性中耳炎から、すでに滲出性中耳炎に移行していることが多いといえます。

●初期に見つけて治療に結びつけるためには、どうしたらよいですか？

▼かかりつけ医が、診察のときに耳も診てくれるならよいですが、そうでないなら、耳鼻科のかかりつけ医を作つて、年に2〜3回は定期的に耳を診てもらつてよいでしょう。

中耳炎になつているかどうか、中耳炎をくり返すタイプかどうかなどもわかります。また、鼻水や鼻づまりが続くときも中耳炎を起している可能性が高いので、耳鼻科を受診するとよいでしょう。

耳鼻科の診察は、耳垢があるとスミースにできないので耳垢を家庭で取るのが

怖い方は定期受診の際取つてもらつてもよいですね。急性

中耳炎を起していると、突然、耳を激しく痛がること

があります。これは中耳にたまった膿が鼓膜を圧迫するため痛みで、鼓膜に小さな穴をあけて、中耳腔にたまった膿を出してしまうこともあります(鼓膜切開)。日中ならすぐに耳鼻科を受診し、深夜なら手持ちの解熱鎮痛剤で痛みを抑え、翌朝、必ず受診を。